

#### ■H30.6.4 市長定例記者会見内容

日時 平成30年6月4日（月）午後2時～

場所 庁議室

出席 市長、副市長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、市民部長、政策参与、企画調整課長、子育て支援課長、環境衛生課長、定期航路事業所長、酒田記者クラブ 7社（山形新聞、荘内日報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報）

#### ■内容

##### 1. 記者発表事項

##### ① トライアスロン・ニュージーランド（以下NZ）&酒田市 若手トライアスリート・スカラシップの実施について

市長／このたび、トライアスロン・NZと酒田市は、NZの若手トライアスリートが酒田市をベースに合宿を行うためのスカラシップ制度を設けます。

これは、昨年10月にトライアスロン・NZの強化部長マーク・エリオット氏が、オリンピックの事前キャンプ候補地として酒田市を視察された際、「自立した選手を育てたい」、「選手自身の負担を伴いつつ、やる気のある選手を派遣したいので、奨学金という形はできないか」という、要請に答えたものです。

奨学金は、一人当たり300,000円、海外渡航費及び国内交通費・滞在費の2分の1相当です。酒田市ホストタウン推進協議会からトライアスロン・NZへ支出され、奨学金を超える費用は、選手の自己負担となります。

ホストタウンとして、NZ若手選手の育成を支援するとともに、滞在中のボランティアや交流パーティーなどを通して、市内の大学生や高校生、市民の皆さんの国際感覚の醸成、人材の育成を図ることができると考えています。

この制度を活用し、今月21日からNZ若手選手2名が酒田に2週間滞在し、みなと酒田トライアスロンおしんレース、みやぎ国際トライアスロン仙台ベイセツヶ浜大会、アジアカップでもあるサンポート高松トライアスロンへ出場するとともに、酒田を拠点にして練習に取り組む予定です。

宿泊は、東北公益文科大学のご協力を得て、大学の講師宿泊棟を利用し、主に自炊となります。

長期間の滞在プログラムを通して、東京オリンピックの事前キャンプのスムーズな受入に向けた環境の確認、改善点の洗い出しを行い、受入の準備を進めていきます。

スケジュールは資料のとおりです。

記者／正式にキャンプ地が決まるのはいつごろ？

市長／来年の秋ごろ。

記者／酒田がキャンプ地に選ばれるために、若手選手を支援するのは有効なのか？

市長／若手選手を呼ぶからキャンプ地をどうこうではなくて、オリンピック後も長く交流したいという思いから交流事業の一環としてこの支援制度をつくった。当然、キャンプ地に選ばれることで交流に弾みはつくがキャンプ地だけにこだわっているわけではない。若手選手がNZに帰ってから酒田に関する話が口コミで広がることで交流が広がっていくことを期待している。

記者／NZの選手を支援するということに対して地元の選手から「私たちにも」という声が出るのではないかな？

市長／この制度は交流を期待しての支援であり、地元から出場する方にはおしんレースへの補助金などの面で別の支援をしているので、それで納得してもらいたいという思い。また、おしんレースの地位が国内で上がっていった際には、財政面だけではないが、行政の支援も考えていかなければならないと思う。

記者／地元の高校生・大学生との交流も図りたいという話が合ったが、具体的にはなにか予定しているのかな？

市長／意図的に行政から指示してやってもらうというつもりはないが、NZの若手選手と同じ年代の方々が自主的にサポートするなど交流することを期待している。

記者／プロアスリートなので栄養バランスなんかにも気にすると思うが。その点での支援などは？

市長／トライアスロン・NZとしては選手に自分のことは自分でしてほしいという考えがあるようなので、必要以上にサポートする必要はないのではないかと考えている。ただし、病気や怪我といった困ったときにはしっかりサポートしなければいけない。

## ② 私の街さかた写真コンテスト作品募集について

市長／このたび、写真を通して酒田を広く紹介することを目的とする「私の街さかた写真コンテスト」の作品募集を開始します。

今年は昨年まで実施していた一般・ジュニアの部にInstagramの部を新たに加え、3つの部門で作品募集を開始します。募集期間は一般・ジュニアの部は11月9日まで、Instagramの部は10月31日までです。

Instagramの部については、期間中にハッシュタグ「#酒田みつけ」を設定して、Instagramに投稿された作品が審査対象となります。ハッシュタグ「#酒田みつけ」は本市の魅力を発信するような写真を投稿する際に設定してもらうよう、5月から呼びかけてきました。今回、写真コンテストの一環にも取り入れることで、より多くの市民や観光客の方から酒田の魅力を発見してもらい、Instagram上で発信してほしいと考えております。

また実際に現像した写真を対象とする部門においては、これまで2枚～3枚の「組み写真」が主流となっておりました。組み写真は写真の枚数が多く、撮影・現像の手間や負担が大きいこと、またストーリー性を持たせるための「組み方」と呼ばれる技法の知

識が求められるため、結果として新たな応募者の獲得を阻害していた面があったのではないかと考えております。そのため、より気軽に撮影・現像・応募できる単写真（1枚の写真のみ）をコンテストのメインの対象とし、特選（一般・ジュニアの部ともに1点）、入選（一般・ジュニアともに3点以内）、広報賞（一般の部のみ5点以内）は全て単写真作品から選出することに変更しております。なおこれまで通り組み写真での応募も受け付けておりますが「組み写真賞」（2点）のみでの扱いとなります。

私の街さかた写真コンテストの審査は12月に予定しており、入賞作品は土門拳記念館で展示するほか、酒田市のPRにも広く使用する予定です。

記者／「酒田みっけ」をつけた投稿が対象となるとのことだが、すべて市長公室の担当職員で確認するのか。

危機管理監／そのとおり。

記者／本人が撮影したものかどうかや、加工があったかどうかの確認もするのか。

危機管理監／本人に連絡する際に、要件を満たしているかの確認はする。加工については、色調整などは認めているが合成や不要物の除去は認めていない。

## 2. 懇談

◎幹事社による代表質問（事前通告）／なし

◎フリー質問

### 【飛島焼却炉】

記者／先日ダイオキシンが基準値を超えた飛島の焼却炉について今後どうするのか。

市長／ダイオキシンが基準値の3倍出たというのは重大なこと。調査結果をみても30年近く経った老朽化が原因と承知している。これからどのようにするかは、島民の方の意見を聴きながらではあるが、なるべく早急に詰めたい。当面は運搬船を使って本土に運んで処理をする形としたい。

記者／恒久的にはどうするのか。

市長／5月に1回意見交換の機会があったが、施設の更新の必要がないのであれば運搬船で運ぶのでも良いのではないかという意見もあるし、ジオパークにもなり飛島の有効活用を図っている中でそれでいいのかという考えもある。もう少し意見交換したい。

### 【寄港地フォーラム（大連）に行った成果】

記者／大連で行われた北前船寄港地フォーラムの成果や所感を。

市長／全体としては1,000人くらい参加する大きなレセプションがあつてびっくりした。日本遺産が拡大したお披露目を兼ねて行ったという部分もある。10年以上地道にフォーラムを続けてきて、こういった日本遺産や大連での開催といった成果が出たことに関して先導してきた方々に感謝申し上げたい。北前船が1つの社会基盤として認知さ

れるように頑張りたいと思えるフォーラムだった。

大連はきれいな町で、日本への理解も進んでいるので、寄港地との交流が広がれば両国の関係がよくなるのではないかと思っている。来年は寄港地フォーラムが新潟であり、大連の関係者が新潟に来るとのことなので、その際にも酒田と大連の交流が前進すればいいかなと思う。

記者／新潟というと来年はデスティネーションキャンペーンでも関係があるが？

市長／大連との交流に関してはデスティネーションキャンペーンも絡めたものと言うのは現時点で具体的にはないが、考えていきたい。

#### 【ダイヤモンドプリンセスの寄港について】

記者／ダイヤモンドプリンセス寄港時のおもてなし体制、英語の対応などどのように考えているか

市長／おもてなし市民会議がいくつかの部隊に分かれている

交流観光課長／酒田在住外国人や英語教師からなる英語ガイドは埠頭と中町で拠点を2つ設ける。それとは別にこれから高校生の英語ボランティアガイドを育成して市内各地にちりばめることを考えている。

記者／ダイヤモンドプリンセスの乗客は何人くらい？

市長／まだ情報ない。